

令和6年度第1回地域福祉推進委員会会議録

日時	令和6年 8月30日(金)午後1時00分～午後2時40分
場所	生涯学習センター1階 第2ホール
参加者	<p>委員：加藤委員長、宮本委員、奥西委員、工藤委員、迫委員、守本委員、西口委員、田實委員、池内委員、海老名委員、山上委員、緒方委員、俣委員、西委員、西本委員、中村委員、土井委員、藤田委員</p> <p>(欠席委員：岡野委員、武藤委員、坂本委員、堀田委員、神野委員)</p> <p>事務局：波戸瀬福祉子ども部長、須原健康長寿副部長、川北地域福祉課長、関島地域援護係長、池主任、社協：島崎事務局長、土田事務局次長</p> <p>傍聴者：なし</p>
事務局	<p>◆次第1 開会</p> <p><各委員が座席表のとおり着席していることを確認></p> <p>定刻となりましたので、始めさせていただきたいと思います。 本日はお忙しい中、台風の中ではありますが、ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>私、事務局を担当しております、地域福祉課長の川北でございます。 どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>◆次第2 委員及び事務局の紹介</p> <p>開会に先立ちまして令和6年度より委嘱されました委員の方をご紹介します。お名前をお呼びいたしますので、その場でご起立をお願いいたします。</p> <p>にしぐち 西口委員、 いけうち 池内委員、 にしもと 西本委員、</p> <p>さかもと 坂本委員は本日まだお見えではありませんので、ご紹介だけさせていただきます。</p> <p>なお、本日は岡野委員、神野委員、堀田委員から欠席のご連絡をいただいております。 武藤委員、坂本委員は出席の予定ですが、まだお見えではないというところです。</p> <p>続きまして事務局職員を紹介させていただきます。 福祉子ども部長の 波戸瀬(はとせ) でございます。 健康長寿副部長の 須原(すはら) でございます。 地域福祉課地域援護係長の 関島(せきじま) でございます。 担当の 池(いけ) でございます。 同じく 橋本(はしもと) でございます。</p>

共同事務局の宇治市社会福祉協議会 事務局長 の島崎(しまぎ)でございます。

同じく事務局次長の土田(つちだ)でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

つづきまして、委員の皆様にご報告させていただきます。

本委員会は「宇治市地域福祉推進委員会の会議の公開に関する要項」に基づき公開とさせていただいております。

また、委員会終了後、発言者名は記載せずに会議録を作成いたしましてホームページにて公開させていただいております。

それでは次に、お手元にお配りいたしております資料の確認をさせていただきます。

本日使用する資料の中で、次第、資料3、資料4、資料5につきまして事前を送付させていただきましたが、資料3、資料5は本日差し替えを行っております。資料は本日お配りしている資料をお使いいただくようお願いします。

【資料の説明】

1. 次第
2. 資料1 宇治市地域福祉推進委員会 委員名簿
3. 資料2 宇治市地域福祉推進委員会設置規程
4. 資料3 第3期宇治市地域福祉計画 地域福祉推進のプログラム
<推進のめやす>
5. 資料4 地域福祉計画 評価表
6. 資料5 宇治市自殺対策計画 推進のめやす
7. 資料6 第2期宇治市自殺対策計画（骨子案）について
8. 資料7 事前質問票 まとめ
9. 資料8 令和6年度 主な推進施策について

<不備がないことを確認>

ありがとうございました。それでは、これより、会議の運営を委員長にお願いいたします。

加藤委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

委員長

皆様方、改めましてこんにちは。

台風が迷走する中、振り回される状況ですが、ご参集いただきましたことを感謝申し上げます。平素は地域福祉に汗を流していただいている、あるいは中心的な部分を担っていただいている責任ある皆さんでございますが、いつも熱心にご議論いただき、宇治市の地域福祉を推進していくことに関して、本当に頼もしく思っているところです。

それでは私の方で進行を務めさせていただきます。

それでは、令和6年度第1回宇治市地域福祉推進委員会を開催させていただきます。

◆次第3 地域福祉推進のめやすの進捗状況について

次第に、「地域福祉推進のめやすの進捗状況について」が挙がっております。これにつきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局

失礼します。

それでは、「地域福祉計画の進捗管理方法について」ご説明いたします。

第3期宇治市地域福祉計画では、資料3と資料4を用いて進捗管理を行っております。

各資料について簡単に説明させていただきます。

資料4をご覧ください。

<事務局より資料4について説明>

それでは、「地域福祉推進のめやす」について説明させていただきます。

資料3をご覧ください。

<事務局より資料3について説明>

簡単ではございますが、「地域福祉推進のめやす」についての説明は以上です。

委員長

はい。ありがとうございました。

ただいま、事務局から説明がございました。地域福祉推進のめやすの進捗状況、各委員様から何かお気づきの点、あるいはご質問がございますでしょうか。よろしいですか。

委員

質問に対する回答はまた後ほどありますか？

<事務局より後ほど説明する旨の返答あり>

はい、分かりました。

委員長

(委員に対して) 次のところでよろしいですか。

<委員、了承>

実施した、しないというところの評価に関しましては、今ございましたように、大方実施はできたということでもあります。

その効果、成果の評価については、現在、どういう物差し、あるいはインジケータで評価していくか、皆様方にまた諮れるように、取り組んでいるところということでもあります。

◆次第4 自殺対策計画推進のめやすの進捗状況について

委員長	<p>それではまた何か、お気づきのこともあればおっしゃっていただくとして、次の、(次第4の)「自殺対策計画推進のめやすの進捗状況について」、これにつきまして、説明を事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>失礼します。 それでは、計画推進の目安についてご説明させていただきます。 資料5をご用意ください。</p>
<p><事務局より資料5について説明></p>	
<p>簡単ではございますが、自殺対策計画推進のめやすについての説明は以上となります。</p>	
委員長	<p>はい、ありがとうございます。 それではですね、引き続きまして、事前質問を頂いておりますので、これにつきまして、資料7をご参照頂きつつ、事務局から説明をお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>失礼します。 資料7をお手元にご用意いただき、事前にご質問頂いた内容につきまして時間の都合上、一部について読み上げを割愛させていただいておりますので、ご了承ください。</p> <p>全部で7ページありますが、1枚めくっていただきまして、2ページの5番、「学区福祉委員登録者数は、1154人から1064人に減少している。新たに69名加入されたにもかかわらず、これほど減少しているのはなぜか」というご質問を頂きました。</p> <p>こちらにつきまして、地域のブロックや町内会から福祉委員を選出している地域では、毎年福祉委員が交代しており、それを新規加入者としてカウントをしています。いずれの学区でも例年、福祉委員は数名規模で減少しているのが現状です。</p> <p>加えて、笠取第二学区福祉委員会、令和4年度福祉委員数は52名でした。令和4年度末をもって解散されたことから、令和5年度の福祉委員数減の一因となっています。</p> <p>次に、3ページの11番、「該当事業がない」という風になっておりまして、「今後どのように取組をしていくのか。地域におけるソーシャルワークを担う福祉専門職の育成を含めた、見守りから課題の発見、関係機関との連携、情報共有の体制を構築します」とされているのですが、「取組事業なし」になっていることについて、先日、宇治市で行われた「宇治市不登校・ひきこもり支援研修・連絡会議はまさにその施策ではないか。」というご意見を頂きました。</p> <p>こちらにつきまして、地域におけるソーシャルワークの福祉専門職の育成については、「宇治市不登校ひきこもり支援研修・連絡会議」だけでなく、そのほかにも該当事業がないか、今回の委員会でのご意見を受けて検討してまいりたいと思います。</p> <p>次に、6ページ目22番、「令和5年度に、例話4年度の数値と比較して、目的達成の目安となる数値が減少し、目標値の達成は困難な事業も見受けられる。こうした施策効果の分析や評価をどのようにされるのか」というご質問を頂きました。</p> <p>こちらにつきまして、学習支援事業、うじピョンの学び舎総参加者数の例でいき</p>

事務局	<p>ますと、現在設定されている定員数及び実施回数が、年度末に中学3年生が卒業した後、年度当初すぐには定員に達しない時期があること等が加味されていないため、目標値設定や評価方法について今後検討が必要と考えます。</p> <p>次に、7ページに移ります。</p> <p>7ページ目の23番、「宇治市内の5年度の自殺者数は把握されているか、また、それぞれの原因などは分かっているのか（自殺対策の基本は、「自殺」に至った原因などの検証にあると考えている）」というご意見を頂きました。</p> <p>後ほど自殺対策計画の骨子案の中でご説明をさせていただくのですが、こちらにつきましては、宇治市の令和5年の自殺者数は年度ではなくて、統計上、5年1月から12月の数となっています。</p> <p>自殺者数は36名となっております、要因・動機別では健康問題が最も多くなっていますが、自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有していると言われ、健康問題が最も多いことから自殺＝（イコール）健康問題として対策するのではなく、各施策・制度との連携の強化が必要です。</p> <p>なお、市では個別の自殺原因を把握することができないという形になっております。</p> <p>最後になります。</p> <p>7ページ目の25番、「令和5年度、団体等からの要請がなく、出前講座を実施しなかったとされている。例えば地域福祉のつどいなどに出向いて自殺予防などの話はできないか。」というご意見を頂きました。</p> <p>こちらにつきましては、市の出前講座は申込み制としており、申込みを受けて担当職員派遣を行っていることから、出前講座の周知が課題であると考えます。</p> <p>現在、出前講座は、市のホームページに掲載するとともに、「町内会・自治会の手引き」、「地域活動サポートメニュー」に掲載しています。今後、市政だよりや公式LINE等の広報ツールについても検討してまいります。</p> <p>簡単ではございますが、事前質問票の報告は以上となります。</p>
委員長	<p>はい。</p> <p>事前質問、非常に大事なことを、質問していただいていると思います。すぐ、答えられることにつきましては、（事前質問票の資料を指して）その回答のとおりでございますが、非常にある意味で、本質的あるいは構造的な問題につきまして、問題を提起していただいたというようなものもございまして、事務局として、これをしっかり受け止めて取り組んでいくと、検討していく。この言葉は行政用語でございませけれども、こういう具体的なお質問、問題提起を頂いたことは非常に重要でございますので、これを踏まえて取り組んでいくということでございます。</p> <p>それでは、各委員様から、ご意見、ご質問を頂きたいと思っております。</p> <p style="text-align: center;">＜委員、挙手＞</p> <p>はいどうぞ。</p>
委員	<p>私が結構、事前質問のまとめの大半私が質問してる内容で、他の方も皆さんいろいろ質問させていただいたら結構なのですが、私のほうからは取りあえず二つのことだけちょっと申し上げたいという風に思います。</p> <p>まず一つは先ほど委員長からも、本質的な問題ではないかということのお話が</p>

委員	<p>ありましたが、資料7の番号の5番の13ページのところと、それから9番のところ、ページ数でいうと20ページですね。この2つのことに関連して、ちょっと私の思いを語らせていただくとありがたいです。</p> <p>実は、学区福祉委員がこれほど減っているのは何故なのかなと率直な疑問として思っていました。今の説明にはなかったのですが、やはり高齢化とかそれから地域のコミュニティが非常に希薄化してきているということが背景としては、もちろんあるのだろうなと思っています。</p> <p>私としては、学区福祉委員が減ってきているとか、あるいは個人ボランティアの総数が減ってきているとか、こういう現象について、いろいろ背景があるであろうということは理解をしているのですが、要はその地域のボランティアな力ですね。</p> <p>いわゆるボランティア活動全般に言えると思いますけれども、地域のボランティアな力をどういう形で評価していくのかということがこの地域福祉委員会でも非常に重要なテーマであろうと思っています。</p> <p>例えばここの学区福祉委員会の福祉に登録されている方のみをいわゆる評価指標とされているわけですね。</p> <p>それはそれで一つの考え方だとは思いますが、例えばその学区福祉委員をされていない方でも、地域の配食ボランティアに協力されているような方もたくさんいらっしゃると思います。</p> <p>そういう意味からいうと、一つの指標として各学区福祉委員というのは、重要な業務をされていると思いますが、私の感覚からすると、学区福祉委員になることについて、やっぱりその抵抗感のある方、「私、そんなことをやらされるのはちょっとかなわない。」という、その責任を持って役目を担わされるということへの抵抗感、そういう方もかなりいらっしゃるのではないかと、というふうに思っています。だからそういう意味で地域のボランティアな力をどういうふうにして評価するのがいいのかなというのは、この地域福祉推進委員会でもやっぱり議論をしっかりとしてほしいなど。</p> <p>私が関わっている、例えば、こども食堂というのが、今、宇治市内で10か所ほどあります。そういうところに多分、私の感覚でいうと、いわゆるスタッフなどの方が100人以上はいらっしゃいます。</p> <p>そういうことも考えると、この宇治市が直接関わっている施策で、そういうボランティアの方々を対象とした数値だけではなくて、宇治市には地域ごとに様々な形でボランティアに関わられる方がたくさんいらっしゃる。だから我々はそういう部分を見て、地域のボランティアな力を考えていくべきではないのかな、というのが私のまず一つの意見でございます。</p> <p>それからもう一つ言わせてもらっていいですか。</p>
委員長	<p>簡潔にお願いします。</p>
委員	<p>すいません。もう一つは今の資料の8番なのですが、市政だよりあるいは介護保険だよりで、地域活動団体の紹介が1回のみというのは不十分ではないかという、ご意見を言わせていただきました。</p> <p>というのはやっぱり1回で地域の活動団体を紹介できるのは限界がありますし、市政だよりは恐らく年24回は発行されていると思いますので、1回だけ市政だよりで、地域活動団体を紹介したらそれで十分だという風に書いておられるよ</p>

委員	<p>うなのですが、ちょっと私は認識が違うのではないかなと思います。</p> <p>というのは、自殺対策でもそうだと思いますが、地域の方々をいかに孤立化させないような孤立化防止の施策というのが、地域福祉においては非常に重要な施策だろうと思います。</p> <p>私の考え方からいうと、やっぱり地域でいろいろな活動をされている方々というのは本当に宇治市内でもたくさんいらっしゃいます。</p> <p>その方々が何をされているかという、やっぱりサークル活動が原点なのかなと。地域のコミュニティ力が非常に弱ってきている今、趣味とか、あるいは興味を持って取り組まれているその地域のサークル活動、そういったものがやっぱり宇治市民の皆さんの活力を支えている部分が非常に大きいと思いますし、それが広く知れ渡ることによって、自殺対策にもなるでしょうし、いわゆる孤立化を防止して地域の皆さんを元気づけるということになるのではないかなと思います。</p> <p>したがって、この地域福祉推進委員会の中で限界はあると思いますが、出来るだけそういう地域で活動されている皆さんの個別の姿をいろいろな媒体を通じて紹介していただく。市政だよりなどが1番やっぱり皆見てもらいやすいのでいいと思うのですが、出来るだけそういう形で市民の皆さんのサークル活動なども含めた地域の活動をご紹介頂くということが1番必要なのではないかなというように私は思っております。</p> <p>以上です。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>事務局何かございましょうか。</p> <p>どうぞ。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>最初の学区福祉委員の関係ですとか、ボランティアの活動の関係ですね。こういった機会でございますので、各委員さんにも、そのメンバーの方もいらっしゃいますので、こういったいろいろなご意見を頂戴しながら、方策を見いだせるようにしてければいいなというふうには考えているところでございます。</p> <p>またご意見をちょうだいすることもあるかと思いますので、そのときにはよろしく願いいたします。</p> <p>それと孤立化防止の件で、広報紙での紹介を増やしていくということですが、おっしゃっていただきましたように、「こういったことをしている」ということで、皆様方に報告していくということは非常に大切だと思っておりますので、いろいろな媒体を使って今後、紹介等を含めて、皆さんに知っていただくということを進めていきたいというふうに考えております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>はい。</p> <p>大事なご指摘を頂きました。ボランティアな活動をもっと評価すべきである。これは評価という表現を出されましたが、サポートをしていくということですね。</p> <p>様々な励まし方、エンカレッジしていくという方法が考えられると思います</p>

<p>委員長</p>	<p>し、実際にいろいろ、本日、各委員様が取り組んでいらっしゃるところであります。大事なご指摘でありました。</p> <p>二つ目は、サークル活動を、地域福祉活動にリンケージしていくという、このご指摘も、いろいろなところでなされていることでもありますけれども、改めて自覚して取り組んでまいりたいものであります。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜委員、挙手＞</p>
<p>委員長</p>	<p>はいどうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>私は子育て支援の NPO として活動していて、元々はお母さんのサークル的なところから始まっていたので、自分たちの仲間づくりから、次の世代のサポートに移っていったので、まさに先ほど委員がおっしゃったようなことで始まった団体で、25 年活動してきています。</p> <p>本当に細かい話で言えば、資料 4 の 4 ページの真ん中に「地域つながり活動支援事業補助金助成団体数」とあります。令和 4 年（2022）年度が 3 件、令和 5 年度は 11 件となっていて、令和 4 年度のうちの 2 件は私が絡んでいて、5 年度も絡んでいます。</p> <p>窓口が市民活動に関わる課で、京都府の助成金ですが、宇治市はその課へもっていくという指示があった年がありました。京都府の助成金で宇治市へもっていくということで、申請を持っていきましたが、「こういう事業をされるのですか？」などのやりとりも全くなく、一生懸命いろいろな事業をやっても一度も見に来られることはない。やはり市民団体が育っていくところは、意味があって何かを始めていくのですね。多分サークルでもそうだし、最初からボランティアという形で始まる場所もあると思うのですが。こういうところで困っているからこの事業が必要かなとか、こういう助け合いがあったらうまくいくのではないかと、ということをおもいついた人が少しずつやっていくものだと思います。</p> <p>同じことを何年もやっているのは、必要な仕組みの中に組み込まれていないからです。例えば、「こういうことで困っているからこういう事業をしています。」永遠に、私たちがこの事業をお母さんたちに、費用負担なく続けていこうと思ったら、助成金をずっと取り続けられないといけないわけです。でも、助成金の（出す側）の団体は、「同じ事業で何年も助成金を出すな。」と言います。問題が解決していないからそれをやり続けられないといけない。市民がやっている活動はどういう困っている人がいてこの事業を起こしたのか。それが宇治市の事業計画を立てていくときに、そういうことで困っている方が、これだけいるのであれば、事業計画の中に入れていって、宇治市の仕組みとしてサポートできるようになっていったとなれば、市民団体はそこを手放して、協力という形で関わっていくし、そこからアイデアが生まれてきたり、力が大きくなって広がっていくと思うのです。（市民活動団体を指して）あの人たちがやっていることはやっていること、宇治市は計画することは計画することで進んでいくと、いつまで経ってもその力は合わさっていかないと思います。本当は、助成金を申請したら、（行政の担当者が）見に来てくれて、「こういうことで困っている人が、これだけ楽になられた。」という喜びを共有するようなところに持っていきたいのです。必ず助成金を申請すると、「よかったら、事業の様子をいつでも見に来てくださいね。」と言</p>

委員	<p>っているのですが、見に来てもらったことはほとんどないという事業です。こっちはこっちでやっているという感じなので、いろいろな人の力が上手に組み合わさって、本当に世の中の必要なことが宇治市の事業になるように、何とか持っていったらいいなと思っています。</p> <p>全体を見て思ったことです。すみません。長くなりました。</p>
委員長	<p>はい。</p> <p>委員さんのご意見について何か事務局ございますでしょうか。</p>
事務局	<p>いろいろとさせていただいている事業等があるということでした、助成金についてもいろいろメニューがあると思うのですが、おっしゃっていただいているように、現場をなかなか見れていないように思います。やはり財源に限りがあるものにはなりますが、なるべくそういった活動をしていただいている方、団体に対して、(助成金を)出せる仕組みを作っていかなくはないということも考えておまして、その点は我々だけではないですが、検討していきたいと思っています。</p>
委員長	<p>本当に貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>実際にいろいろ委員が活動なさっている中で、実感として感じておられるお話だったと思います。</p> <p>地域にはいろいろな市民活動の卵が「埋まっている」というと表現が悪いかもしれませんが、卵がまだ孵っていないものがいっぱいありまして、それが困り事であったり、何か繋がりが欲しいという願いであったり。それを形にするのに、サポートが欲しいのですよね。かつ、元気づけて欲しい。「こういうようにやれば、こういう助成金がもらえますよ。」ということも含めて元気づけるというサポート(が欲しい)。</p> <p>先ほどの委員のご意見と重なりますが、しっかり受け止めて、今後の地域福祉推進に活かしていただきたいと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p><委員、挙手></p> <p>はい、どうぞ。</p>
委員	<p>災害時における被害を最小限にとどめる取り組みについて、自主防災会で現在取り組んでいることは、震度5弱で、自主防災組織のメンバーが集まって、警戒レベル2で集合するというのを基本的に決めています。</p> <p>残念ながら、台風の影響で、この間からずっと集まって、町内全域にマイク放送できる設備があり、それを利用して現在やっています。</p> <p>窓を閉めると聞こえにくくて、聞きにこられる人があります。</p> <p>「避難はどんなふうにしますか。」と。</p> <p>それから、これは質問ですが、間違いなかったら、その通り教えていただきたいのですが、</p> <p>天ヶ瀬ダムが放流したとき、水害の情報で避難命令などが出ると聞いています。これは危機管理室にも確認しているのですが、</p>

<p>委員</p>	<p>私が住んでいる槇島地域は、土砂災害の情報が出て、避難の情報は出ません。</p> <p>ですから、水害だけの、電柱に貼ってある「5メートル」とかがざらです。避難したらよいのかどうかというのは、それを目安に判断しています。</p> <p>天ヶ瀬ダムとどう関係しているのかということで、放流されたら避難命令が出るというように聞いています。それが間違っているのか、合っているのか、はっきりわからないのですが。</p> <p>その時点で危機管理室が指令を出すというふうに聞いてます。</p> <p>うちは、避難所まで遠いので、一番便利なのは小倉小学校で、一番高台になっています。ただ、あそこは避難所になってません。</p> <p>私どもの槇島地域は、槇島小学校と、北槇島小学校で、そこまで行くのに大分あります。</p> <p>事前に、避難するというふうにして、垂直避難を基本というふうにうちはしています。3階があれば、3階以上のところへ水害の場合は移動する。</p> <p>その辺はどうかと思ひまして。</p> <p>質問ですが。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。</p> <p>防災に関連しますね。</p> <p style="text-align: center;">＜事務局、挙手＞</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。</p> <p>防災とか、避難指示命令に関することは私の所管外で詳しくお答えできないところですが。</p> <p>本当に台風が近づいて、皆さんいろいろなご心配をされている状況かなというふうに思います。</p> <p>天ヶ瀬ダムの放流も、いろいろな段階があります。</p> <p>ダム自体がもう満杯になりそうな状況、さらにその状態でさらに水がどんどん上流から流入してくるというような状況にあつては、本当にたくさんの1000トンを超える放流ということも、ダムの運営としてあり得るということで、そういった場合に、堤防の決壊との兼ね合わせの中で避難指示、あるいはその前段階の避難勧告「避難をお勧めします」という段階を踏んで、そういう情報が出ていくということかと思ひます。</p> <p>私が今（放流が）何トンだったとかは、なかなか言えないのですが、そういった情報を段階的に市のほうからも発出をさせていただくということになりますので、避難に時間がかかる方については、その段階で開設された避難所の方に早めにご避難いただく。</p> <p>あるいは先ほどご案内頂きました、垂直避難と言って上の階に避難することも、推奨されるようになってきていますので、そういった自分自身がとりうる手段を、普段からご検討頂いて、市から段階的に出させていただく情報を踏まえてですね、その時々判断をまずはさせていただきたいという風に思っております。</p>

事務局	<p>基準的なことが多分、一概に何トンだったら避難とか、なかなかそういうことでもないのかなという気もしますし、私も所管外で、あまり詳しくお答えできなくて大変申し訳ありませんが、現段階で私が答えられるところということで、以上、お答えとさせていただきます。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。大事なご指摘であります。</p> <p>社会的に弱い立場の人たちが孤立しがちになっておりますので、防災、減災、あるいは災害時避難の問題は、地域がまとまっていくとても大事な要素になっております。我々もしっかり考えていきたいなと思っておりますけれども、ライフラインの維持及び回復は行政が担っていただきますから、地域の力と行政の力の連携がこれからもっと必要になってくると思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それぞれまだご意見があると思いますが、進行の都合もございますので、次に移らせていただきます。また何かございましたら、遠慮なくご意見ください。</p> <p style="text-align: center;">◆次第5 第2期自殺対策計画（骨子案）について</p> <p>それでは、次の議題が、先ほどの議題と関連しますが、「第2期自殺対策計画（骨子案）」につきまして挙がっております。これについて事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、「第2期自殺対策計画（骨子案）について」説明させていただきますので、お手元に資料6をご用意ください。</p> <p style="text-align: center;"><事務局より資料6について説明></p> <p>簡単ではございますが、第2期自殺対策計画骨子案についての説明は以上となります。</p> <p style="text-align: center;"><事務局、挙手></p>
委員長	<p>はい、どうぞ。</p> <p>はい。では、補足をお願いします。</p>
事務局	<p>宇治市の自殺者数ですが、令和5年中増えたということで報告させていただいたのですが、令和6年の速報値が出ております。1月から6月までの比較で言いますと、昨年は1月から6月まで23名の方が自殺されておりましたが、今年は1月から6月までで12名の方が自殺されているということです。この12名というのは、去年多かったその前の年ですね、令和4年と同じ数になっており、一定落ちついてきたのかなというように思うのですが、今後またその辺の推移を見守っていかねばならないと考えておるところでございます。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>ただいまのご説明がございました「第2期の自殺対策計画（骨子案）」基本施策として5つ挙がっています。</p>

<p>委員長</p>	<p>各委員からご意見、ご質問を賜りたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">＜委員、挙手＞</p> <p>はいどうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>これは認識が間違っているのかもしれないのですが、今説明のあった5ページの(3)の基本目標のところの考え方として、いわゆる3割以上自殺者を減らすのを、令和11年までの目標としますということをお先ほど説明されたかなと思います。</p> <p>それで令和元年と比較してということなので、令和元年が21名の方が自殺という形でお亡くなりになった、という数字の3割減ということなのでしょうね。そうすると、単純計算でいくと、恐らく、7名ぐらいの方は減るので14名ということになるという数字を目標にしますよということで、私個人としては、これが14名の方が亡くなってもいいというような施策は、本当にいいのかと。つまり、将来的に自殺ゼロを目指します。ただ、当面はそれは難しいので、3割減で勘弁してくださいみたいな、それは、私はあまり賛成できません。</p> <p>私もかつて、よりそいホットラインという全国レベルでの電話相談に関わっていましたが、やっぱり自殺される方が本当にいらっしゃるという現実を行政はもっと本当に重く受け止めないといけないと思いますし、結果的に、先ほどの説明にもあったように、令和6年は36名よりも大分減って、20数名ぐらいになるかもしれないのですが、それにしても自殺される方がいらっしゃるということは本当につらいことですし、我々はそれを認めるというか、それを容認するということはおかしいと思います。</p> <p>したがって私は、「将来的には自殺者ゼロを目指します」ではなくて、やっぱり「宇治市は令和11年であっても自殺ゼロを目指します」という方針にすべきだというふうに思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。</p> <p>事務局いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員のご指摘はその考え方としてはもうまさにそのとおりで、我々としても、そういったことから、前の計画ではゼロを掲げましたが、一定この行政計画というのは数字に基づいて、数値目標を立てていくということで、これもいろいろ課題があるので、そういったことを基本的な考え方としてやってきている中で、「10万人あたり7.8人までは、自殺者がいてもいいのか。」そういう意味合いではないのですが、そういう風に見えるような数値目標がいいのかどうかというのは、我々今日ここに来るまでも大分悩んで持ってきたという次第でございます。また、各委員さんのご意見をお聞きしながら、次の初案に向けて、検討していきたいのですが、今の段階では、やはりこの数字に基づいて進めていく。それから国、京都府も、計画年10年前から30%減少させるという、そういう数値的な目標をよりどころにして、基本目標を掲げているということです。</p> <p>今回はこういう形のご提案といいますか、これを出させていただきまして、皆様のご意見をお聞きしたいというふうに思っている次第でございます。</p>

委員長

ありがとうございました。

私も個人的には自殺はあってはいけないといいますが、自殺に追い込まれる人があってはいけない。

かつては「意志的な自死」というものもありました。切腹とかありました。現代の自殺、自死は本当に追い込まれてのことです。

それはやはり、これぐらいは許容していいだろうということではないと思いますので、貴重なご意見だと思いますので、また、しっかり事務局とも相談させていただきたいご意見であります。

事務局の説明の中にも、自殺の原因という言葉避けて要因とおっしゃいました。経済的な理由、あるいは病気、これは引き金であって、原因ではないのですよね。それこそ、いろいろなことがあってそこに追い込まれていく。非常に、複雑な要因が絡みます。とりわけ、人間関係、孤立ということも大きな要因になっております。

かつ、経済的な理由もございまして、全国統計であります、1997年の段階で2万4400人亡くなっていたのが、その翌年、1998年、なんと3万2800人。

2万4400人から1年後3万2800人になって、これで政府が「大変だ」という話になったのです。

これは実は、失業率と非常に関連しております。3万人台がずっと続いて3万人以下になったのが、おおよそ2011年頃ですね。これも実は失業率と関連しているということを指摘する学者が多くいます。97年というと、それこそ11月に山一証券と北海道拓殖銀行が潰れたという、日本の歴史上大きな事件があったときであります。

もう少しだけ追加させていただきますと、日照時間と関係あるという研究者もいたのですけれども、どうも日本の都道府県の統計を見ると、沖縄でも自殺率は高いですのでそうでもない。逆に、自殺率が低い県は、鳥取、福井、神奈川、徳島。

徳島に海陽町という町がありまして、極端に自殺率が低いのです。これを岡檀（おか まゆみ）さんという研究者が、なぜかということの研究しましたところ、三つ要因がある、と。

一つは、漁村なのですが、多様性に富んでいるということです。ダイバーシティという横文字を使いますが、多様性に富んでいる町で、一つの価値観で縛るような町ではないというのが一つ。

それから二つ目は、「病を市に出す」ということを言うのですが、弱音をいろいろなところで吐ける場所が幾つかあるというのを岡さんが指摘しています。

宇治市にはほっとふれあいサロンという全国に誇るべき地域事業であります、こういったものの活性化も大事でしょう。

そして三つ目は、人の痛みを受け止められる、感じられる、そして、配慮できる生活文化があるということです。

この三つがあります。

ですから、自殺対策というよりも、私は自殺予防対策あるいは自殺防止対策（がいいのではないかと思います）。

自殺対策というのはどうかと事務局と話をしていたのです。政府は、自殺対策と自殺防止最多対策と自殺予防対策、三つ使い分けております。

ヒューマンな社会をつくっていくということによって、自殺する方も、追い込まれる方も少なくなっていくという、やはり単に、ゲートキーパーを増やせばいい

<p>委員長</p>	<p>いという話では恐らくないだろうという風にも思います。 すみません。しゃべり過ぎました。 委員のご意見、他にいかがでしょうか。お伺いしたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">＜委員、挙手＞</p> <p>どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>自殺対策で具体的にですね、いろいろな個人的な悩みとか地域社会との関係とか、こういうことについて相談する窓口というのは、宇治市にはありますか。</p> <p style="text-align: center;">＜事務局、挙手＞</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、お願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>地域福祉課では、専門員、または臨床心理士が職員におりませんので、自殺専門の窓口ではないのですが、地域福祉課のほうに電話が来たときには、まずお話を聞くということを見せていただいております。京都府のほうには、そういった窓口がございますので、そういった窓口を案内するという風には行っているところなのですが、（宇治市には）専門の窓口がないのが現状ではあります。</p> <p style="text-align: center;">＜事務局、挙手＞</p>
<p>委員長</p>	<p>どうぞ。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。すみません、ちょっと補足をさせていただきます。 いわゆる、今課長がお答えさせていただいて、本当に自殺に特化した相談ということなのですが、そうじゃなくてその前のいろいろな段階で悩みを抱えられていて、少しずつ追い込まれていくというところがございますので、まず、いろいろな相談窓口が必要と思い、市でも相談窓口をつくっています。高齢者であれば、健康長寿部健康づくり推進課で、そういった相談を受けますし、あるいは地域包括支援センターのほうでもそういった対応させていただいております。DVやご家庭の相談であれば、男女共同参画課にも各種相談窓口がありますし、経済的なところであれば、社会福祉協議会も含めて、そういった相談を受けさせていただいております。 今、相談の一覧を持ってきてないので大変申し訳ないのですが、宇治市でも市民相談室とか、いろんな相談窓口をご紹介させていただけるような窓口もつくっております。まずは、それぞれの内容に応じて相談を受けさせていただいておりますし、その方が複合的に複数の悩みをお持ちであれば、その窓口同士で連携をして対応する、さらに本当に自殺という言葉を出されるような、そういう状況であれば、京都府の窓口とも連携をするというような形で取り組ませていただいているという、そういう状況でございます。</p>

委員	<p>それぞれの部署、あるいは課、係、それぞれ具体的なこと、自分の個人的なことで、「その部署のところに行きなさい。」というの、それはそれでいいのかもしれないけれども、少なくともいろいろなもやもやとしたことも含めて「こんなことで困っているんだ。どうしたらいいのだろう。」と、そういう窓口はやはり設けるべきではないかなあと思うのですが。</p>
委員長	<p>いわゆるなんでも相談みたいな感じですね。断らない相談ですね。 そうしましたら、その点もご意見を受け止めていただいて、またよろしく願いたいと思います。</p>
事務局	<p><事務局、挙手></p>
	<p>断らない相談とか、いろいろな複合的な、自分自身がどこに悩んでいるのか分からない、どこに行ったらよいか分からないという場面は多々あるかと思えます。そういったことに対応するために、包括的支援から重層的支援への相談体制を作るように国も掲げてやっています。</p> <p>現段階では、先ほども申しましたが、宇治市では相談窓口間の連携ということをやっています。行政の入口の窓口で市民相談係があり、そこも連携をとってやっています。断らない相談、重層的、包括的な相談体制というのは宇治市としても取り組むべき課題だと考えておりますので、今いただきましたご意見を踏まえて検討していきたいと思えます。</p>
委員長	<p><委員、挙手></p>
	<p>どうぞ。</p>
委員	<p>病院に行くとか、行かなければいけないというのは、かなり深刻な状態、自分がそういうふうに思ったときはかなり症状が重いと思うのです。そういうのは、そこまで行く、行かなければいけないというその前に、例えば、ちょっと不謹慎なのですが、病院のロビーで自分の病気を披露する。例えばここが悪いとかあそこが悪いとか、何かそう言っている人たちは、案外気持ち的に元気だと見受けられます。</p> <p>そういうことも割と考え方の一つではないかと思うのですね。</p> <p>実は、水曜日の日に宇治市内で聞こえにくい方は、支援センターそらの「耳のこと相談会」で、聴力の測定やいろいろな相談、困り事、聞こえにくいことの不便さとかを相談できます。私は難聴者協会から出て、「どういうことに困っているか。」、難聴者協会ではこのような活動をやっている。」とか、そういうような話をしました。</p> <p>その中でひとりの人が、「自分はまだ聴こえる。こんな軽い状態で、行ってもいいのだろうか。もっともっと重い人が行くのではないか。」とおっしゃったのです。「それは違う。軽くても重くてもそれは関係ない。不便さつらさには変わりない。自分がそう思ったらもうすぐ行ったほうがいい。」というようなアドバイスをしました。こういうことで、軽いサロンみたいな感じで、例えば、自分事なのだけれども自分事として発表する場ではなくて、「こういう例もあるのだけれども、こういう事はどうなのだろうか。」という体験者の中で、お話を聞いて</p>

<p>委員</p>	<p>いくと、いろいろな方があてはまる。私もそうです。そういう話を聞いて、「自分と同じだ、自分は大丈夫なのだ。」と。そういうちょっとした安心感、それがいいのか悪いのか分からないのだけれども、もっともっと追い詰められて病院に行くよりも、そういう前の段階で何か（できれば）。一対一の聞き取りというのはいかに重いです。たくさんの中で、「こういうことで困って、実はこうなのだ。」、そういうさらっと流せるような話は結構参考になります。これは難聴者協会に自分が30年近く前に入って、なかなかはじめず、それまでの何十年間はだめだった。そういう事例もあって、段々と人前で話が出来て、自分の考えを皆様方に聞いてもらう。</p> <p>そのことだけではなくて、隣にいる要約筆記者の方がしっかり書いてくださるので、正しく理解できて、こちらも正しく答えられるのです。正しく答えられるか、何でもそうなのですけれども、反応の行き違いっていうのはかなり傷つくことがある。どんな場所でもいいから簡単に流せる場所とか、そういうものがもっと増えるといいのではないかな、追い詰められて病院に行く前に、そこが防止というか、自殺防止の前段階になるのではないかなと。難聴者協会に入って、やっぱり自分の経験も大変で、お話しさせていただきました。</p> <p>長々と申し訳ございません。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。今のご意見も、ぜひ受け止めて受け止めたい大事なご意見だと思います。</p> <p>はい。他にどうでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p style="text-align: center;">＜委員、挙手＞</p> <p>私は子育て支援をしていて、誰かひとり本当に困っていることがあって、びっくりするような案件があったとしても、実はそれが1年、2年したら困っている人がたくさん増えているというようなことがあって、ひとりの話を聞いたときに、その次の人が起こらないようにしようという予防でどんな事業ができるかなという風にいつも考えながら事業を組んできたのですけれども、こういうふうにならなくなった方のケースについては、その方からの聞き取りというのはいかにできないかもしれないけど、実際に亡くなれば、自殺されてしまったケースの方が、実際にどういうことで悩んでいらっしまったのかとか、その方にどういうサポートがあったらそこまでいかなかったのかというような本当にもうここまで来ると個人的なことで、公の場でも、こういう委員会でも聞けない内容にはなってくるけれども、本当に無くしていこうと思ったら、一人ひとりのケースをきちっと掘り下げて行って、どのようなものがあつたらこの人はそこまでいかなかったのかというところを、何例か特に50代の男性が亡くなってるケースが多いのであれば、過去に遡ってご協力頂けそうなご家族がいらっしまったら聞き取り調査をして、その方たちがどこか病院が入ったり相談ができるとしたらどういうことがあつたのだろうということを掘り下げていかないと予防というのはいかにできないのではないかと思います。周りのご協力を得て、ご家族も思い出されるのはつらいかもしれないけれど、何人かご協力頂けるのであれば、特にこの50歳ぐらいの方をターゲットにこれから具体的なことを作っていかれるのであれば、ぜひ取り組んでみられたらどうかと思います。</p>

委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今の委員のご意見も受け止めておきたいと思います。</p> <p>それでは時間の都合もございますので、次の議題に移りたいと思います。</p> <p>最後にもう一度、皆さん方に全体的にご意見を伺います。</p> <p style="text-align: center;">次第6 令和6年度 推進施策について</p> <p>6番目の次第に、令和6年度、推進施策が上がっております。</p> <p>これにつきまして、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、令和6年度の主な推進計画について紹介いたします。</p> <p>資料8をお手元にご用意をお願いいたします。</p> <p>こちらは、今回新規の委員がいらっしゃるのですけれども、令和5年度第2回地域福祉推進委員会でご説明をしておりますため、今回は左方に「拡充」「新規」と書かれている事業について簡単にご説明をさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">＜資料8について説明＞</p> <p>簡単ではございますが、令和6年度の推進施策の説明は以上となります。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>ただいまの推進施策も含めまして、全体を通して、皆様方から、ぜひこの点発言しておきたいということがありましたらよろしく願いいたします。</p> <p>いかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p style="text-align: center;">＜委員、挙手＞</p> <p>はい、どうぞ。</p>
委員	<p>先ほど、自殺の方の一人一人のケースを掴んで、それをもとに施策を、組立てたらどうかという貴重なご意見だと思うのですが、なかなかその聞き取り調査というのはすごく難しいと思うのです。</p> <p>自殺された、遺されたご家族の方はすごく傷ついておられるし、聞き取り調査を市の職員がしていくというのは、先ほど地域福祉課からお話があったように、臨床心理士などやはり専門性がないとなかなか難しいかなと思います。そこはやはり慎重に考えていかないといけないことかなと思います。</p> <p>もちろん知らないといけないと思うのですが、それで、宇治市として施策に生かしていくことが必要だと思うのですが、ちょっと気になったので発言させていただきました。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。大事な、留意事項だと思います。</p> <p>はい、ほかにどうでしょうか。</p> <p>全体を通してでも構いませんが、よろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>

<p>委員長</p>	<p>今日、本日も非常に熱心にご議論頂きました。 なかなか難しい課題でございます。 自殺の問題については、自殺しようとしている方は本当に追い込まれておるわけですし、相談に行こうとするエネルギーも、なくなっていることが多くございます。とにかく「消えてなくなりたい、楽になりたい。」という思いになっていらっしゃる。我々専門家の中で「スマイリング デプレッション」という表現がありますが、「にこにこ鬱病」なのです。 仕事をばりばりなさっていた方ほど、実は仕事人間ほど鬱病になりやすいのですけれども、その際に、にこにこして、鬱を隠すのです。 それが、ある意味で、その人のプライドなのかもしれません。 ですから、「(私は) 実は追い込まれてるのです。」というふうに相談に行ける人はいいのですが、むしろ行けない人が多い。 その点で、先ほどからご意見がございましたように、いろいろなサロンのな場所、委員は趣味とおっしゃいました。 こういう場所をもっともっと地域の中に、多元的、多様につくっていくことが大事かなとも思います。 米国の社会学者に、レイ・オルデンバーグという人がおりまして、この人が「家庭」がファーストプレイス、「会社」とか「学校」がセカンドプレイス、第2の場所。そしてその地域の中でインフォーマルに、コミュニティーに開かれている、そして何でも言える場所がサードプレイス。 このサードプレイスをもっと広げていく必要がある。オルデンバーグは、居酒屋とか、ヘアサロンとか、カフェも含めてサードプレイスという風に言っているのですが、これはもう、委員さんがおっしゃった碁会所も含めてそうでありますよね。それから、ほっこりスペースあいても、一種、そういうサードプレイスですよね。海陽町の弱音を吐ける場所、ぐちを聞いてもらえる場所、聞いてあげられる場所、あるいは、深刻なことを専門家に会いに行くのに寄り添ってあげていよいよというふうに言ってくれるような場所、そういう場所を地域の中にいっぱいつくっていったらいいなど、皆さん方のご意見を伺って、改めて教えられた次第でございます。 本当に熱心なご議論、ご意見感謝申し上げます。 それでは、進行を事務局にお返ししてよろしいですか。 第7の「その他」についていかがでございましょうか。</p> <p style="text-align: center;">次第7 その他</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。終了にあたりご挨拶申し上げます。 本日は皆様本当に熱心なご議論ありがとうございました。 この自殺の対策に関しましては、(事前送付ではなく当日に) この骨子案を出させていただいたというところで、今からまた資料を見ていただいておりますので、その際は、事前にこの後メール等でも結構です。またお寄せ頂ければと思います。 この後11月頃に第2回の福祉委員会を開催いたしまして、そこで、計画の初案というものを作らせていただいて、そのあとパブリックコメントで最終的に決定をするという方向性で、今後進めていきたいという風に思っております。 本日皆様から、地域の活動、それから、居場所についてのご意見を頂きまし</p>

事務局	<p>た。やはり自殺の対策に当たってもそこは一つの鍵になるのかなと私も感じさせていただいたところでございます。なかなかマンパワーの関係があって、地域の活動に市の職員が出向けていないというところもあろうかと思えますけれども、我々としましてもやはり地域の活動とか、そういったものはしっかりと把握していきたいという思いを持っておりますので、今後とも、皆さんの活動にできる限り関わっていきたいと思った次第でございます。引き続き皆様にはご苦勞、ご負担をおかけいたしますけれども、今後ともこの地域福祉推進委員会の運営、それから地域活動、地域福祉の推進にご理解、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。閉会に当たっての私からのご挨拶をさせていただきます。</p> <p>本日は本当にありがとうございました。</p> <p>(終了)</p>
-----	---